

忘れられない、思い出。



第24回

みよしまつり

地域がひとつになり、ふるさと「三芳町」に誇りを感じることができる、年に一度のまちの祭典「みよしまつり」は今年で24回を迎えました。9月6日(土)に行われたこのまつりをレポートします。

毎

年9月の第1土曜日に行われる「みよしまつり」。今年も夏の終わりの風物詩として9月6日(土)に行われ、4万5千人が来場しました。

東京フィルハーモニーのメンバーによる金管五重奏から始まり、会場のコピスみよし前に用意された椅子は全て埋まり、一流のプロの演奏に足を止める来場者の姿も。メイン会場となるグラウンド。お囃子の鳴り物、出店や露店が来場者の五感をくすぐります。

会場ではロックソーラン節や囃子踊り、組み太鼓や御輿練り歩きが行われ、役場前に設置されたパフォーマンス広場ではみらいくんとのだみちゃんと一緒にジャンケン大会も行われました。途中、雨が激しく降る場面もありましたが、スケジュール通り進行。輪踊りでは多くの人たちが飛び入り参加し「みよし音頭」を踊る光景も見られ、阿波踊りが会場を盛り上げていきました。

まつり当日、リアルタイムで

雨雲の流れを確認。花火の打ち上げ時間に雨雲が来てしまう可能性があったため、各イベント参加者の協力のもと、進行を早めて行きました。

2千発の花火が夜空を彩るみよしまつり。天候を考慮し約20分ほど早くファンファーレを合図に花火がスタート。花火の打ち上げの最中に小雨が降り始め、後半には激しくなりましたが無事打ち上げは終了。みよしまつりは幕を閉じました。

一夜明けた9月7日(日)。まつり会場には残念ながら、空き缶や食べ残しのある容器等が散乱していました。しかし土砂降りの中、地域の人や企業の皆さんが協力し、会場のゴミ拾いや片づけ等を行いました。こうした皆さんの協力があり、みよしまつりは行われています。

地域が一つになる、地元愛を感じることができる「みよしまつり」。子どもたちにとって、ふるさと「三芳町」を誇りに思い、忘れられない「大切な思い出」として心にずっと残ることでしょう。

伝えたい。故郷の誇り。